



FINNISH NATIONAL
AGENCY FOR EDUCATION

フィンランドの教育における児童 生徒と教師のウェルビーイングの 捉え方と取組

ピア・コラ＝トルヴィネン
(フィンランド国家教育委員会 教育参事官)
(トウルク大学 実務家教授)

マルヤ・クリスティーナ・レルッカネン
(ユヴァスキュラ大学 教授)

国際シンポジウム 2026年3月14日 東京 日本
子供・教師のウェルビーイングを高める学校改革

*これらのスライドの作成は、フィンランドのユヴァスキュラ大学の
マルヤ・クリスティーナ・レルッカネン教授と協力して行われました。



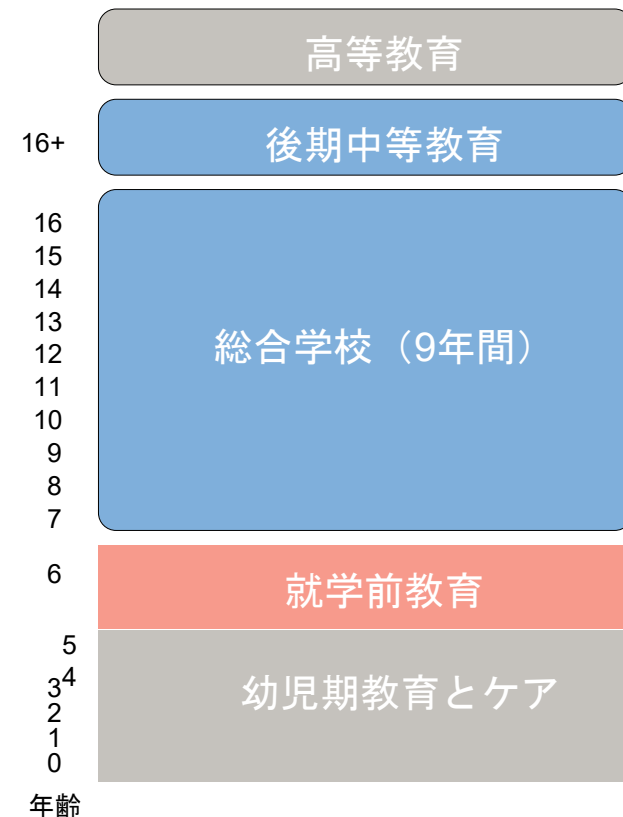
フィンランドは8年連続で世界で最も幸せな国である





フィンランド教育の成功

- フィンランドの教育は、OECDの各調査(PISA、PIRLS(10歳対象)、PIAAC(16~65歳対象))において常に上位にランクイン
- 国内ほぼ全ての学校は公立校
- 教育費の家族負担なし
- 学校に対する外部視察や全国テストなし
- 学校間の格差は非常に小さい
- リスクを抱えた子供を早期に認識・介入
- 十分な訓練を受けた(大学で修士号を取得)フィンランドの教師は、授業において大きな自律性を認められており、信頼できる専門家として世界的に有名



子供と教師のウェルビーイング に関する教育政策—議論の背景



政府プログラム： 教育と社会におけるウェルビーイング目標

- **学習支援**: 教員の事務負担を軽減しつつ、個別のニーズに沿った手厚いサポートを実施するための法令
- **権限の強化**: 教師と校長が授業時間中の問題行動に介入できる権限を強化—児童生徒の集中力を高めるために、校内でのモバイル機器使用をより効果的に制限する法改正など
- **安全な学習環境**: 全ての子供が安全な学習環境と安心な学校を享受する権利を保障
- **ウェルビーイング支援**: 社会における様々な主体の幅広い協力を通じてウェルビーイングを推進。ウェルビーイングサービスに携わる行政区、自治体、学校、第三セクター、教区の協力枠組みを定義。
- **部門横断的な身体活動プログラム**: 行政部門間の協力を通じて、アクティブな生活と身体能力向上を推進するプログラムを策定



基礎教育法(1998年 法令第628号)

子供の最善の利益と成長支援

- 教育の目的は、児童生徒が人間的に成長し、倫理的責任を持つ社会の一員となるよう支援することである。
- 教育は、児童生徒の年齢や能力に応じて構成し、健全な成長と発達を促進するものとする。
- 教育の計画及び運営においては、子供の最善の利益を最優先して検討しなければならない。
- 登校日には、児童生徒に対して、適切な運営・管理の下、栄養価の高い給食を無償で提供しなければならない。
- 児童生徒は、授業時間の前後に実施される活動(午前及び／又は午後)に参加できる。



基礎教育法(1998年 法令第628号)

学習・登校支援

- 児童生徒は、必要が生じた場合には直ちに支援を受ける権利を有する。
- 学習能力の制約による支援や評価、計画、特別な配慮の実施に関する諸規定

安全と学習環境

- 安全な学習環境を提供される権利
- メンタル支援サービス、スクールソーシャルワーカーサービス、医療との連携などの児童福祉サービス
- 問題児の分離や所持品検査など、学校の規律や安全を確保する措置



フィンランド基礎教育法(1998年 法令第628号) に基づく基礎教育における評価責任

- 教育機関は自らが提供する教育について評価を実施するとともに、第三者機関による評価に参加しなければならない。
- 教育評価の目的は以下のとおり:
 - 基礎教育法で掲げる目標の達成
 - 教育の発展支援
 - 学習環境の改善
- フィンランド教育評価センター(FINEEC / Karvi)が全国評価の調整を担当し、質向上を支援。
- **結果の透明性**: 調査で得られた重要知見は公表が義務付けられている(学校別の調査結果は非公表)



ナショナルカリキュラムにおける ウェルビーイング目標



カリキュラムにおけるウェルビーイング

- **ウェルビーイングと学習は不可分な関係**—学校活動においてこの2つを同時に推進
- **児童生徒の全体的なウェルビーイング**(身体的、精神的、社会的、情緒的ウェルビーイング)を支援する学校運営文化が必要
- **安全でやる気を促す学習環境を通じてウェルビーイングを推進**—児童生徒が学校への帰属意識を持てるようにすること、また敬意を持って扱われるようにすること。
- **児童生徒福祉とは、日々の学校生活の欠かせない「一部」**—家庭やその他関係者と協力して児童生徒のウェルビーイングを支援。
- **ウェルビーイングは、教育指導の内容・方法も通じて対応**—情緒的・社会的スキル育成、体育、保健教育など。
- **コミュニティと参加はウェルビーイングの前提条件**—児童生徒を学校活動の計画と発展に参画させる



横断的コンピテンシーにおける ウェルビーイング

ウェルビーイングは横断的コンピテンシーの重要な側面の一つであり、以下の複数の領域に反映されている:

- **自分自身のケア・日常生活スキル:** 児童生徒に対して、自身のウェルビーイング、健康的な生活様式、安全を認識し、高めるよう指導
- **交流・協力:** 建設的な集団的取組を通じて争いを解決する方法を学ぶことが、社会的ウェルビーイングの一助となる
- **思考・学び方を学ぶこと:** 心理的ウェルビーイングが学習意欲と自信を高める
- **参加・影響をもたらすこと:** 学校コミュニティの一員となることで、存在意義や帰属意識が育まれる



取組実績



議会任期中の基礎教育発展に向けた活動

- 学習支援改革(2025年8月～)
- 基礎スキル向上に向けた補習時間の追加(2025年8月～)
- 授業中の携帯電話使用など、迷惑行為の制限による学習環境の改善(2025年8月より)
- 追加準備教育(通常の基礎教育集団で学習する上でフィンランド語能力が足りない児童生徒向け)及び第二言語(S2)としてのフィンランド語教育改革。
- 2026年8月以降、基礎教育法に基づき、アクティブな生活様式の促進を義務化



フィンランド国家教育庁における ウェルビーイング活動の概要

- **孤独と社会的排除:**
 - 孤独・疎外感を特定・対処するための教員向け資料を取りまとめ中
 - 家庭と学校の協力強化とコミュニティ構築を目指し、保護者組織と協力
- **いじめ・暴力防止**
 - 安全な学習環境の確保に向けて480万ユーロの助成
 - 孤独・疎外感などのテーマを含む、学校指導者向け研修
 - 国のいじめ防止ウェブサイトを改定中
- **デジタルウェルビーイング:**
 - フィンランド保健福祉研究所(THL)と連携し、子供と保護者からの意見を取り入れつつ、子供のスクリーンタイム(デジタル機器利用時間)に関する提言を策定中



フィンランド国家教育庁における ウェルビーイング活動の概要

- **趣味と余暇:**
 - 「フィンランド余暇活動モデル」プロジェクトは263の自治体で運営中—毎週1万の趣味グループ活動を提供
- **身体活動の推進:**
 - 「スクール・オン・ザ・ムーブ」プログラム—全児童生徒が学校生活においてアクティブに体を動かすようにすることが目標
- **「2025年リテラシープログラム」:**
 - 「読者の育成」に注力、リーディングに係る課題、多言語主義、平等に取り組む若者の参加と図書館を中心とするリテラシー活動を支援する新規助成
- **参加とインクルージョン:**
 - フィンランド保健福祉研究所(THL)との新たな「ESR+」プロジェクトにおいて、保護者支援とデジタルウェルビーイングのモデル開発に注力



フィンランドにおける児童生徒の ウェルビーイング測定方法



「学校健康促進調査」(フィンランド保健福祉研究所(THL))



- 児童生徒のウェルビーイングをモニタリングする最も包括的なツール
- 4～5年生、8～9年生、高校生を対象として2年ごとに実施(対象の全児童生徒必須の調査)
- 測定項目:
 - 健康と精神的なウェルビーイングに関する自己認識
 - 学校でのエンゲージメントと関心
 - 孤独、いじめ、安全に関する経験
 - 生活習慣(運動、薬物使用、栄養摂取など)
- 調査結果は、学校、地方自治体、ウェルビーイングサービス担当区において、業務向上に活用

子供と若者のウェルビーイング： 「2025年学校健康増進調査」結果 (n=269,899)

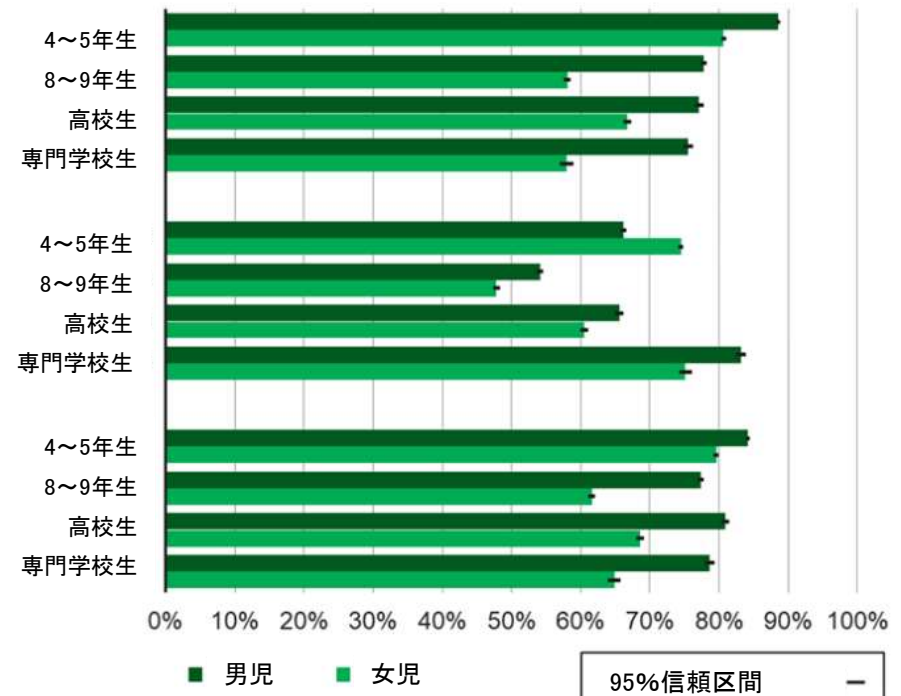


- 自分たちの健康状態は良いと認識
- 日々の生活については満足感を抱いている
- 男児の方が生活の満足感が高い傾向
- 勉強が好きと感じている
- 自身の個人的問題を保護者と話し合うことができる、と感じている—こうした傾向は男児の方が高い

今の生活に満足している

学校に行くのが好き

保護者と頻繁に／かなり頻繁に自身の問題について話し合うことができる



2025年における子供・若者のウェルビーイングを、性別、学校段階別に示した指標(%)

児童生徒福祉計画とカリキュラムにおける評価 (フィンランド教育庁)

- 各教育機関は、児童生徒のウェルビーイング促進活動を明記した「児童生徒福祉計画」の策定を義務付けられている
- 日々の学校生活とコミュニティにおける児童生徒福祉の一環としてウェルビーイングを評価
- 予防活動とコミュニティにおけるウェルビーイングの強化に注力

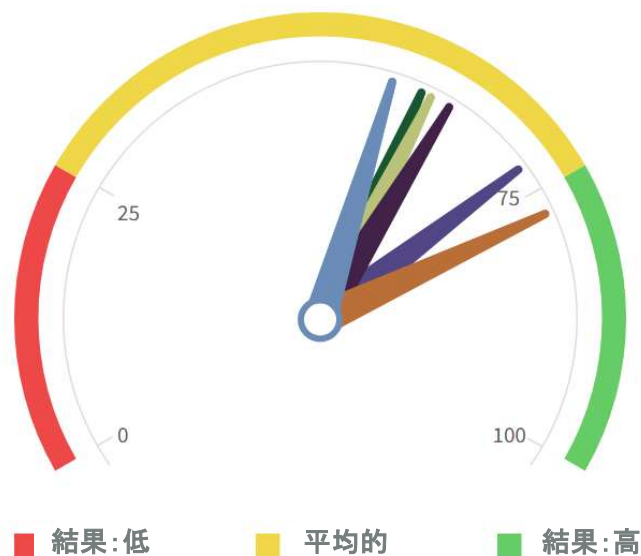


TEAviisari (TEApointer) (THL & フィンランド教育庁)



- 学校及びその他教育機関における健康増進のベンチマークツール
- ウェルビーイング、健康、安全に関する実施事項を評価
- 結果を戦略的計画立案と機関間の比較に活用

基礎教育: 全国(2023年)



基礎教育

- コミットメント
- 管理
- 監督・ニーズ評価
- リソース
- 通常の実践事項
- 参加
- その他中心的機能

データ更新日: 2025年10月24日

環境・コミュニティ評価


- 各校は、以下について3年ごとに評価を実施：
 - 物理的な学習環境
 - 心理社会的ウェルビーイング
 - 安全・健康状態
- 結果に基づいて必要なアクションを合意決定、フォローアップを実施



学校におけるウェルビーイング 向上プログラム



「スクール・オン・ザ・ムーブ」



SCHOOLS ON THE MOVE

About us | Schools on the Move
<https://youtu.be/3lLmhUIAApY>



- 目標: 全児童生徒が、より身体的にアクティブで楽しい学校生活を過ごせるようにすること
- 方法: 画一的な介入ではなく、各校のニーズに合わせた、柔軟な枠組みのプログラム
- 3つのコア領域:
 - アクティブな文化の創出—授業時間中の身体運動を促進
 - 教育方法の開発—身体活動と指導法・学習方法を統合
 - 運動の増加—授業中及び授業外における身体活動の機会を増加
- 範囲: フィンランド総合学校の90%以上が参加
- 調整: フィンランド教育・文化省及び国家教育庁が主導、LIKES研究センターが調整担当

フィンランド「リテラシープログラム」



- 「2030年国家リテラシー戦略」の実施プログラム：
フィンランドを世界一のマルチリテラシー先進国へ
- 主な目標
 - 幼児期から成人期まで全年齢層におけるリテラシー向上を促進
 - 早期教育、学校、自治体など各対象ごとのサブプログラムを通じて、リーディングとリテラシーを支援
 - リテラシー活動関係者の部門横断的な連携を強化
 - リテラシー活動支援として、無料のツール、資材、研修、イベントを提供
 - 地方・国のリテラシー関連事業に助成を配分
- 主な構成要素
 - サブプログラム：
 - 「幼児教育におけるリーディング」
 - 「学校におけるリーディング」
 - 「自治体におけるリーディング」
 - 「リテラシーネットワーク」: 教育、図書館、メディアなどの専門家が結集し、2024年に発足
 - 「エコシステムアプローチ」: 社会全体にわたるリテラシー向上に向けて、共通理解や枠組みを構築

#WEREAD

フィンランドにおける教師の 職業的ウェルビーイング



教師の職務関連ストレス

- 教師＝ストレスの多い職業、という認識。職業的ストレスが高いと多くの教師が報告。
- 職務関連ストレス＝教師という職業に関係する側面が原因で生じる、不快でネガティブな感情と定義（緊張、苛立ち、不安、フラストレーション、神経質など）
- 米国の教師の78%が、心身の疲労を頻繁に感じている（American Federation of Teachers, 2015）
- フィンランドの教師の43%が、非常に又はかなり頻繁に、職務関連のストレスを経験（Länsikallio et al., 2018）
- 同67%が、非常に又はかなり頻繁に、職務に高揚感を感じている（Länsikallio et al., 2018）



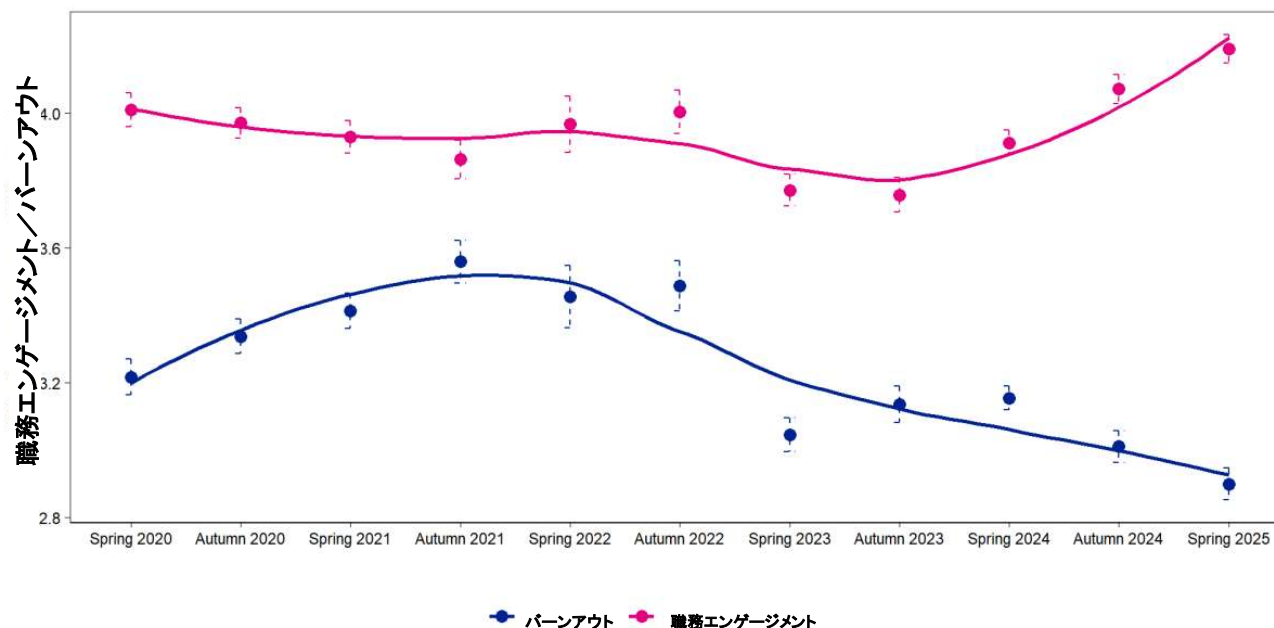
「教師の職業的ウェルビーイング調査」*： 時系列データ(2020年～2025年の動向)



職務上の要求-リソースモデル：

職務エンゲージメントとは、仕事への熱意、献身、没頭など職務に関するポジティブな経験

バーンアウトとは、疲労感、冷笑的姿勢、無力感などのネガティブな経験



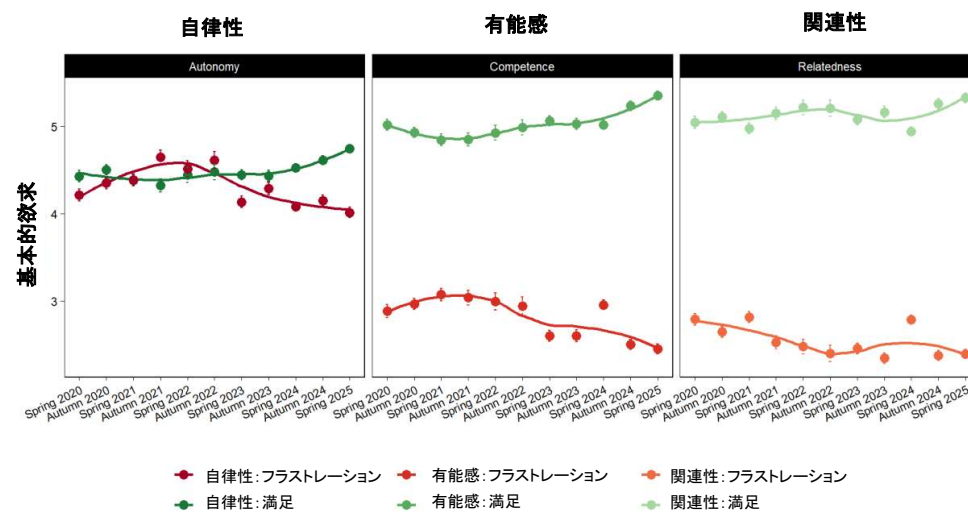
(a) 尺度：1＝強く不同意－6＝強く同意。値が高いほど、職務エンゲージメント／バーンアウトが高いと認識していることを示す

*Heinimäki, O.-P., Niikkonen, I., Huttunen, I., Vinni-Laakso, J., & Hietajärvi, L. (2025). The Teachers' Occupational Wellbeing Study [Data set]. Zenodo. <https://doi.org/10.5281/zenodo.17142283>

「教師の職業的ウェルビーイング調査」*： 基本的心理欲求の満足度・フラストレーション



- ウェルビーイングと最適な能力発揮に不可欠な中心的心理欲求
 - **自律性**: 自身の価値観や選択に従って行動できる。自身の職務に影響をもたらす。
 - **有能感**: 仕事に関して、自分には実行力があり能力があるという感覚
 - **関連性**: 他者とのつながりを感じ、受け入れられ、大切にされているという感覚
- **満足度**は上昇傾向
- 有能感と関連性に関する**フラストレーション**は減少傾向



(a) 尺度: 1=強く不同意-7=強く同意。値が高いほど、職務において満足度/フラストレーションが高いことを示す

*Heinimäki, O.-P., Niikkonen, I., Huttunen, I., Vinni-Laakso, J., & Hietajarvi, L. (2025). *The Teachers' Occupational Wellbeing Study [Data set]*. Zenodo. <https://doi.org/10.5281/zenodo.17142283>

「教師の職業的ウェルビーイング調査」*： リカバリー、職務の意味、範囲外の仕事

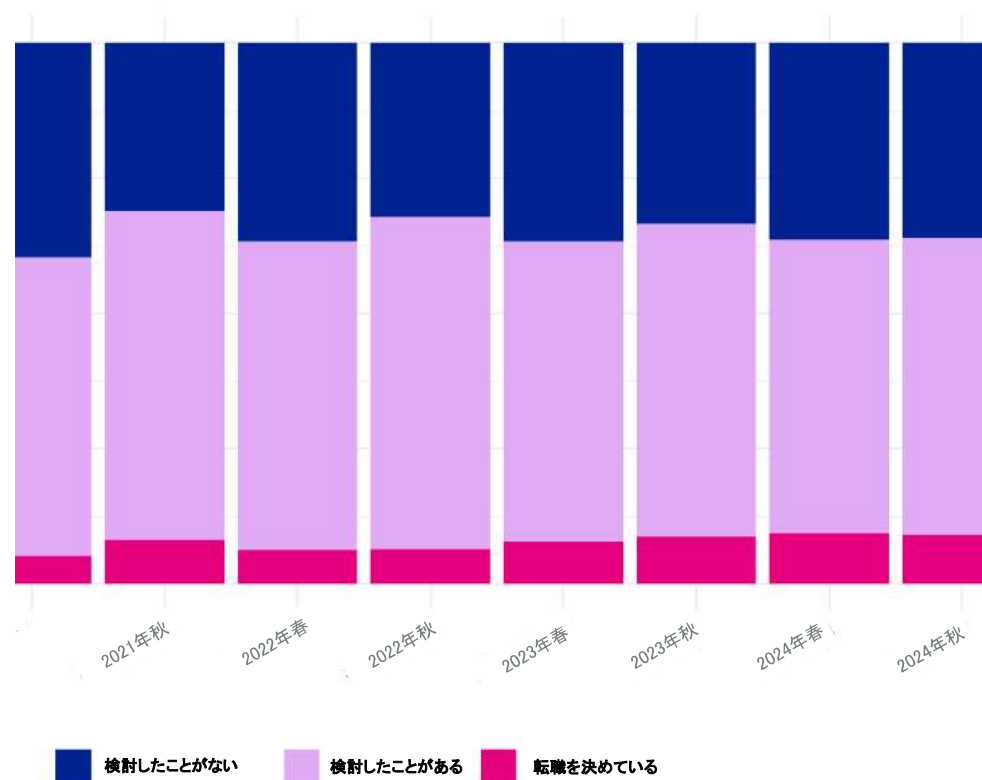


- 自由時間中のリカバリー: 観察期間中、教師の報告によるとリカバリーは改善
- 職務の意味とは、教師が、自身の職務をどの程度重要で意義あるものと捉えているかを示す:
 - 測定ポイント間で多少の変動は見られるものの、2024年秋以降、「有意義性」は明らかに上昇傾向
- 職務外の仕事とは、教師が、自身の中心的職務とは無関係又は不必要と思える仕事、又は自身の専門的な役割、能力、職務内容に照らして、不合理又は不適切と思える仕事。こうした業務は、本来であれば教育指導などの中心業務に充てられるべきリソースを消費してしまう。
 - 調査結果によれば、職務外の仕事は減少
- 他の多くの分野に比べて、教職は職務上のストレスが生じることが多い
 - 業務量がこうしたストレスの最大要因の一つ。業務量過多の状態が続くと、バーンアウトや、職務のエンゲージメント、品質、満足度が低下する可能性。
 - 調査結果によれば、2022年以降、業務量に関連するストレスは明らかに減少傾向

「教師の職業的ウェルビーイング調査」*： 離職意向



- 離職意向に関するデータから、教師のウェルビーイング及び教職の魅力に関する知見が得られる
- 教師の離職意向は、調査期間を通じておおむね横ばい
- 多くの教師が、離職を検討したことがあると回答しているが、実際の計画に至った者ははるかに少ないと思われる



教師のウェルビーイングと教師-児童生徒のインタラクション

- 教師のウェルビーイングは、教師-児童生徒のインタラクションと関連
 - 職務関連ストレスが高まるのは
 - 情緒的支援、授業環境の整備、指導的支援の質が低下した場合 (Chan et al., 2023, 2025)
 - 職務エンゲージメントが高まるのは
 - 教師-児童生徒のインタラクションの質が向上した場合 (Soininen et al., 2023)
- 授業におけるインタラクションの質向上は、教師の仕事満足度の向上と関連 (Virtanen et al., 2019)
- 教師-児童生徒のインタラクションの質は、学習における児童生徒の状況的エンゲージメントと関連 (Pöysä et al., 2019)

-Chan, S. W., Pöysä, S., Lerkkanen, M.-K., & Pakarinen, E. (2023). Teachers' Occupational Well-Being in Relation to Teacher-Student Interactions at the Lower Secondary School Level. *Scandinavian Journal of Educational Research*.

-Chan, S. W., Pöysä, S., Lerkkanen, M.-K., & Pakarinen, E. (2025). Teachers' occupational well-being in relation to teacher-student interactions in primary school. *Journal of Early Childhood Education Research*, 14(1), 1-27.

-Pöysä, S., Vasalampi, K., Muotka, J., Lerkkanen, M.-K., Poikkeus, A.-M., & Nurmi, J.-E. (2019). Teacher-Student Interaction and Lower Secondary School Students' Situational Engagement. *British Journal of Educational Psychology*, 89, 374-392.

-Soininen, V., Pakarinen, E., & Lerkkanen, M.-K. (2023). Reciprocal associations among teacher-child interactions, teachers' work engagement, and children's social competence. *Journal of Applied Developmental Psychology*, 85, 101508.

-Virtanen, T., Vasalampi, K., Torppa, M., Lerkkanen, M.-K., Nurmi, J.-E. (2019). Changes in students' psychological well-being during transition from primary school to lower secondary school: A person-centered approach. *Learning and Individual Differences*, 69, 138-149.





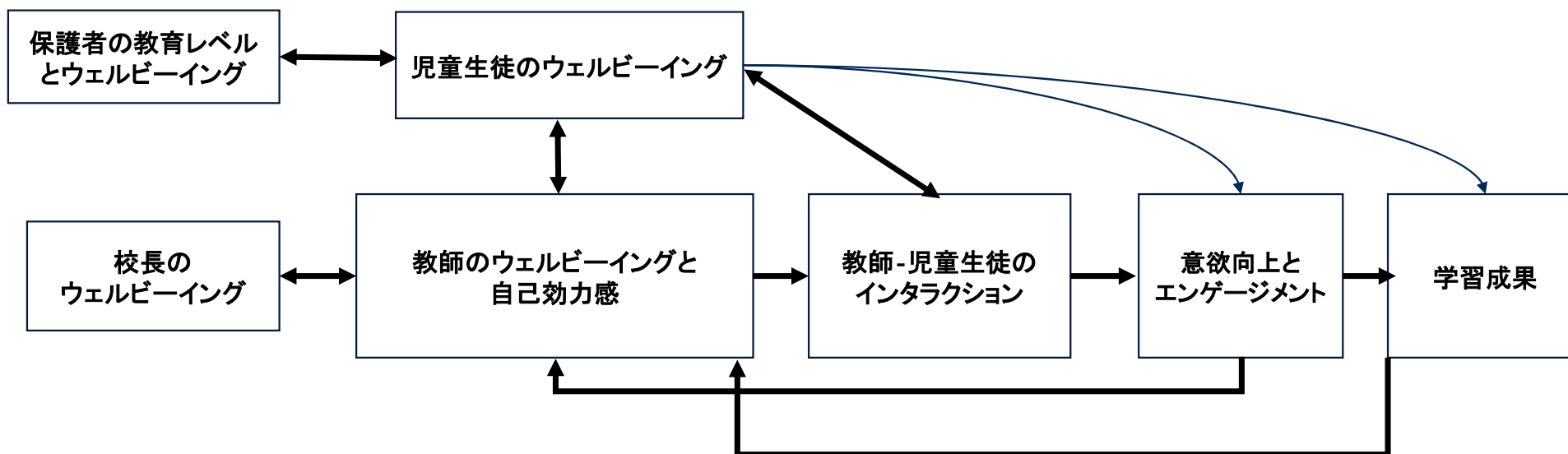
教員組合からの提言

教員組合は、質の高い教育と教師のウェルビーイングを確保するために、以下の施策を提案する

1. グループの平均人数を減らす
2. グループ分けした各授業にリソースを配分する
3. 各校にリソース教師を増員し、追加リソースとしてグループを支援する
4. 特別支援教育の教師の割合とグループの最大人数について、グループ内の要支援児童生徒の数を踏まえて規定を設ける
5. 準備教育を受けている児童生徒が、他教科の授業を受けられるようにする
6. 教師が同僚や保護者との協力に十分な時間を充てられるようにする



結論：ウェルビーイングと学習成果のインタラクション



以下のプロジェクトから得られた結果概要：

- 「ファーストステップ」調査 (Lerikkanen et al. 2006-2017) www.jyu.fi/alkuportaa
- 「教師と児童生徒のストレスとインタラクション (TESSI)」調査 (Lerikkanen & Pakarinen, 2016-2022) www.jyu.fi/tessi
- 「教師のインタラクションと評価コンピテンシー (OPA)」教師育成プロジェクト (Lerikkanen 2019-2021) www.jyu.fi/opa
- 「未来の教育 (EDUCA) フラッグシップ」 (Lerikkanen et al., 2024-2028) www.educaflagship.fi



ありがとう!
Arigatō gozaimasu!

e-mail:

pia.kola-torvinen@oph.fi

pia.kola-Torvinen@utu.fi